

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	12-327	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
Baclofen for alcohol withdrawal. アルコール離脱に対するバクロフェン療法		
執筆者		
Liu J, Wang LN.		
掲載誌		
Cochrane Database Syst Rev. 2013 Feb 28;2:CD008502. doi:		
キーワード		
<p>要 旨</p> <p>背景 バクロフェン治療は、アルコール依存症患者で重篤なアルコール離脱症候群（AWS）の症状を急速に減らすことができ、コストも有意に引き下げる。バクロフェンは管理が容易であり、そして、多幸感や渴望と他の良い感じの効果はバクロフェンで治療される患者に報告される。</p> <p>目的 AWS である患者のためにバクロフェンの効能と安全性を評価する。</p> <p>検索方法： Cochrane Library（2012年10月）、MEDLINE（1996年から2012年10月）、EMBASE（1980年から2012年10月）、CINAHL（1982年から2012年10月）のCochrane本部に登録されているControlled Trials（CENTRAL）を検索した。 また、進行中の試験、例えばClinical Trials.gov、Controlled-trials.com、EUDRACTなどの登録簿を検索した。これと同時に、ある言及が同定された試験の参考文献を手作業によりさがし、研究者、製薬会社、試験の著者に未発表または未完成の試験に関する情報を求めて連絡をとった。すべての検索は、英語以外の言語文献も含んだ。</p> <p>選択基準： 全てのAWS患者に対してバクロフェン対プラセボまたは他のいかなる治療も評価しているランダム化された臨床試験（RCT）を対象とした。対照がない、ランダム化されていない、準無作為試験は、除外した。パラレル群とクロスオーバー法の研究は含んだ。</p> <p>データ収集と分析： 2人のレビュー著者は、可能性のある検索された参考文献をそれぞれ独立に評価した。すべての意見の相違は、独立した人によって解決された。研究の著者には、付加的な情報をえるためにコンタクトをとった。副作用情報は、臨床試験から集められた。</p> <p>結果： 複出版物を除き、検索されるすべての電子データベースから合計113の文献を特定した。タイトルと要約からスクリーニングした後、10の研究の完全な論文が適格性の検討のためにとりよせ評価された。最終的に、81人の参加者をふくむ2件のRCTが包含基準をみたしていた。有効性に関して、1つの試験はバクロフェンとジアゼパムがClinical Institute Withdrawal Assessment of Alcohol Scale Revised（CIWA-Ar）のスコアを有意に減少させ、2つの介入群間には有意差がないことが示唆された。もう一つの試験では、プラセボと比較してバクロフェンでCIWA-Arスコアに関する有意差はなかったが、バクロフェン群でプラセボ群に比べて高用量ベンゾジアゼピンに対する依存が有意に減少した。一方、1つの調査だけで安全結果が報告され、そして、バクロフェンもジアゼパムのグループの中にも副作用はなかった。</p> <p>結論： バクロフェンをAWSに推薦することの証拠は、不十分である。 よりうまくデザインされたRCTがその有効性と安全性を証明するために必要である。</p>		